

<今回>296回目 2021年6月21日(月)15時~18時 第9会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p322、東西5月行、南北3月行 より

<前回>295回目(21-6-11)出席者 7名

資料(21-06-11-1)前回のまとめ(清水)

(21-06-11-2)野田利郎氏難波到着説批判(清水)

(21-06-11-3)郷土誌いずみ野掲載、日本書紀の隠しているもの(清水)

A 報告 新しい場所で早くに来られた方もあったが、予想よりきれいで、親切な対応だった。

B資料 2)古田史学158号掲載の野田氏の隋書倭国伝の難波到着説を批判した文書であるが時間がないので配布だけに止めた。天智の皇后に倭姫がいて、九州王朝のつながり、と午前中のWEB会議の様子を話したら、初田氏が故郷琵琶湖畔の膳所に大きな膳所神社があり、祭神は倭姫という。3)横浜泉区の郷土誌いずみに掲載の日本書紀公刊1300年記念としてまとめたもの。古田史学では公知の物ですが歴史の興味がある一般の方にわかってもらうよう校正のメンバーを説得した苦勞の産物であるので配布させていただいた。

C読書 倭国と推古紀

1)日本書紀の史実 ①第1回目の派遣 推古15年(大業3年)7月から推古16年(大業4年)4月

② 第2回目派遣 裴世清の中国への帰国と共に推古16年(大業4年)9月から推古17年(大業5年)9月まで。1年間滞在して妹子らは通事を残して帰国。

2)隋書帝紀の倭国(前ページ) 大業4年3月百済、倭国、赤土国ら、ここでは2月になっている、3月の誤植、安本美典に指摘されてすぐ訂正。結論は隋書側と日本書紀側と矛盾はない。2月も3月も滞在している。

3)第2回目の派遣は大業5年の1年間の派遣で、滞在しているが、帝紀の大業6年正月の列席には妹子らは帰国しているが通事の福利らは滞在していると考えれば矛盾はない。隋書帝紀の倭国は日本書紀の記載と日時との矛盾はない。

4)2つの道 日本列島に隋と国交を結ぼうとしていた2つの国があった。隋書の裴世清の動向記事を見る。①朝命すでに達せり、請う即ち塗を戒せよ。九州倭国(倭)との国交は成立し、更に奥地に行くため戒塗してください。戒の使い方の例を3件あげる。②推古16年4月大唐の使人裴世清、下客12人、妹子と共に筑紫に至る。難波に吉士雄成を遣わし大唐の客裴世清を召す。唐の客のために更に新しい館を難波の高麗の上に造る。

5)東方孤立の王者 ①隋の天子の国書の中に「皇帝、倭皇に問う。海表に介居し、民庶を撫事す。として介居の言葉を分析する。②隋書倭国伝には金印の漢の委奴国王印をわざわざ漢の倭奴国王に変換して倭は委の国であることを示しているが、卑弥呼や倭の五王まで一貫した王権であることを示し、隣国の百済、新羅も皆倭を大国として、通行している。倭国は孤立していない。本紀の倭国は介居していて東方から初めて姿を現した国として、天皇家を見ている。

6)参考に前回の本紀を再度掲載。隋書本紀三(煬帝上)大業四年三月、百済、倭、赤土遣使貢方物

大業六年正月、倭国遣使貢方物

次回日程 2021-7-5日(月) 15時から18時 かながわ労働プラザ第9会議室

—7-26日(月)15時から18時 かながわ労働プラザ第1会議室(8階) 変更、もと23日

—8-13日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室